

盲導犬の育成を通じて結ばれる人と人の絆

～パピーウォーカー、盲導犬訓練士、引退犬ボランティア～

視覚や聴覚、肢体に障害のある人たちの暮らしをサポートするために、全国では「補助犬」と呼ばれる犬たちが活躍しています。補助犬とは、盲導犬、聴導犬、介助犬のこと。厚生労働省の調べでは、盲導犬が1070頭、聴導犬が27頭、介助犬が53頭となっています(平成23年2月1日現在)。平成14年には、身体に障害のある人の自立と社会参加促進のための「身体障害者補助犬法」が施行され、補助犬に対する法的環境が徐々に整いつつあります。これにより、公共交通機関のほか、民間のホテルやレストランなどでも、補助犬同伴で利用することができるようになりました。

今回は、日本ライトハウス(以下、ライトハウス)の協力を得て、補助犬の代表ともいえる盲導犬に焦点を当て、盲導犬の育成過程と、そこに関わるさまざまな人々の絆について取りあげます。

1頭の犬が、視覚障害者の人生を変える?

視覚障害者は外出時、いつも緊張しながら歩いています。なぜなら、バリアフリーが進められているものの、町の中は依然として障害者が歩行するには、さまざまな危険を伴うからです。このため、視覚障害のある人の中には家に閉じこもりがちになる人も少なくありません。しかし、盲導犬と一緒に、買い物や銀行や役所へも、今よりもっと気軽に出かけられ、社会参加の機会も広がるでしょう。また、家族のような存在となった盲導犬は、白杖とは違い、視覚障害者にとって、心の支えにもなります。

盲導犬を希望する視覚障害者、約7,800人(平成10年日本財団による調査)に対して盲導犬の実働数は全国で1,070頭(平成22年3月末現在)と、まだまだ不足しているのが現状です。その背景には、外国から盲導犬にふさわしい血統の犬を輸入し、たくさんの手間をかけるため、1頭に約500万円という経費がかかる問題やボランティア不足などが考えられます。

盲導犬になれる犬は約3分の1

盲導犬を一頭育てるのには、訓練のほかに、さまざまな段階があり、2年前後の時間を必要とします。育成過程の節目に行われる盲導

犬の適性審査を通らなければ盲導犬にはなりません。

ライトハウスでは繁殖により誕生した盲導犬候補の子犬を1年間に約60～70頭も育成しています。このうち、最終的に盲導犬になれるのはわずか約20頭です。

「ライトハウスでは、毎年盲導犬を希望する人が約30人います。1～2年待ってもらうこともありますが、ほぼ全員に盲導犬を提供できます」とライトハウス職員の岩本菜穂子さん。

さまざまなボランティアの協力が必要

1頭の犬が盲導犬になるには、さまざまボランティアの協力が必要です。繁殖犬の世話や盲導犬候補の子犬の出産を手伝う「繁殖犬ボランティア」、子犬から訓練センターに入所するまでに家で預かる「パピーウォーカー」、盲導犬になれなかった犬を家庭で育てる「キャリアチェンジ犬ボランティア」、盲導犬として活躍した犬の世話をする「引退犬ボランティア」などがあります。

これらのボランティアは、一緒に活動することはありませんが、それぞれの“思い”の連携プレーによって、1頭の犬を社会に活かし、一人の視覚障害者の暮らしや人生を変える力を生み出しています。

次に、子犬が盲導犬となり引退するまでの過程とそこに関わる人たちの役割をみていきます。

1 繁殖

盲導犬候補にふさわしい犬を安心して出産できるように(繁殖犬ボランティア)

盲導犬の候補には、盲導犬にとって必要な性格、適応力等を十分に持っていて、なおかつ遺伝的な病気を持っていない優れた親犬が選ばれます。したがって、繁殖犬であっても、盲導犬になれる性格や能力を持っていない限りなりません。

ここで、盲導犬候補犬の出産を手助けするのが繁殖犬ボランティアです。盲導犬に多く使われるラブラドルレトリバーやゴールデンレトリバーといった犬種は多産で、1度に10頭前後の子犬を生むこともめずらしくありません。生まれた子犬達は繁殖ボランティアのもとで、母犬や兄弟と多くの時間を過ごし、「犬社会のルール」を勉強します。約50日後に、パピーウォーカーに預けられます。

2 パピーウォーキング

いっぱい愛情で包み、人間を愛せる犬に(パピーウォーカー)

生後約50日の子犬を預かる「パピーウォーカー」は、トイレトレーニングから始め、人間社会で生活するための基本的なしつけを行い、愛情をたくさん注ぎます。子犬は、散歩を通して外部環境に徐々に慣れます。犬や猫、鳥といった動物、子どもたち、電車や車に遭遇するなどさまざまな経験をします。この時期に、たくさんの



人とふれあい、人間社会にスムーズに溶け込み、人間を好きになるように育てられます。

ライトハウスでは、月に1度、パピーウォーカー担当者がパピーウォーカーの家庭を訪問し、しつけの仕方などを指導をします。

「まだ、1年半で毎日勉強です。最初は、犬が主体の仕事と思っていましたが、ボランティアさんとのふれ合いを通じて、実は人が主体だったこと。犬一頭育つのも、みなさんに支えられている事業であることに気づかされました。盲導犬ユーザーさんが「この子(犬)と一緒に、いろんな所にいけて楽しいな」と話されるとよかったです」(パピーウォーカー担当・中村悦子さん)

3 キャリアチェンジ

盲導犬になれなかった犬が
幸せになるように
(キャリアチェンジ犬ボランティア)

パピーウォーキング終了後の1週間かけて盲導犬の適性評価をします。その結果、盲導犬に向いていないと評価された犬を迎え入れ家族の一員として大切に育てるのが、キャリアチェンジ犬ボランティアです。「盲導犬になれなかった犬=ダメな犬」と誤解している人もいますが、評価はあくまで盲導犬に限定した適性評価です。ここまでの過程で生まれた子犬の約70%が盲導犬としては「不適合」になります。

4 盲導犬になるための訓練

視覚障害者を安全に
誘導できるように(訓練士)

訓練では、まっすぐにゆっくり歩くこと、交差点などの角や歩道の段差で止まることなどを教えます。訓練の場所は、障害物がない

静かな住宅地から、徐々に人通りがあり、自転車、看板、電信柱、自動販売機など障害物の多い繁華街などへ移り、電車やバスの利用、エスカレーターの利用などさまざまな環境で、約6カ月間にわたり、盲導犬としての適切な行動が取れるように繰り返し訓練を行います。

「キャリア40年になります。盲導犬がどう誘導すれば、目の不自由な人がスムーズに歩けるか。常に、視覚障害者の立場に立って考え、訓練しています。繰り返し訓練することで、正しい判断を習慣化していくことが大切です」(訓練士・日紫喜均三さん)

5 共同訓練

盲導犬ユーザーのニーズに合った犬に
(盲導犬歩行指導員)

訓練終了後、盲導犬歩行指導員が、訓練犬の性格や体格などと盲導犬希望者のニーズを照らし合わせ、よりニーズに応えられる形でのマッチングを行います。

そのために不可欠なのが視覚障害者と歩行をする共同訓練です。初めて盲導犬を持つ人の場合は、訓練所に宿泊し候補犬との共同生活を約4週間送ります。この間、犬と一緒に単独で歩くための知識や技術を習得してもらおうと同時に排便、グルーミング、食事など、犬と生活を共にするために必要な事項についてもトレーニングを行います。

指導員の経験もある日紫喜さんは、マッチングが最も難しいといいます。

「訓練所の中でどんなにいい訓練がなされていても、ユーザーさん(盲導犬利用者)とうまういかなければなりません。特に、歩行の速度調整は重要。また、ユーザーさんの要求はそれぞれで、原則は静かな犬を貸与していますが、

コラム 訓練士になるためには

盲導犬訓練士になるには、全国に10か所ある盲導犬育成団体に就職し、研修生として働きます。平均して5年程度で訓練士になることができます。ただし、犬だけでなく障害のある方たちとも関わっていく仕事なので、目の不自由な人の役に立ちたいという気持ちがなければ、つとまらない仕事です。

NPO法人「全国盲導犬施設連合会」では、2010年より、盲導犬育成団体の推薦により、盲導犬訓練士や盲導犬とユーザーの共同訓練を行う指導員の資格取得システムができました。訓練所の職員であれば、だれでも受験できます。

中にはひとり暮らしだから、少しは吠えて守って欲しいという方もいらっしゃいます。職員間で相談して慎重にマッチングしています」

6 引退

お疲れさま、安らかな気持ちで
最後まで一緒に(引退犬ボランティア)

犬も年齢を重ねると足腰が弱くなり、疲れやすくなります。また、白内障が出たり、耳が遠くなったりすることもあります。「安全な歩行の提供」という盲導犬の役割を果たせなくなったら引退せざるを得ません。一般的には、盲導犬として8~10年前後活動し、10~12歳に引退します。

責任のある仕事を務め終え、長年連れ添ったユーザーとも別れ寂しい思いをしている元盲導犬を「お疲れさま」の暖かい気持ちで迎え、家族の一員として一緒に過ごすのが、引退犬ボランティアです。なお、引退犬といっても、盲導犬としての勤続年は関係なく、病気やケガなどで早く引退した場合も含まれます。



別れるときは、お嫁さんに出すような 気持で送り出します。



ーパピーウォーカーを始めたきっかけは?

挨子さん:ペット犬が17歳で亡くなり、また犬を飼おうと考えたのですが、私たちの年齢から飼いはじめたら、後で散歩に出るのも大変になると思いました。パピーウォーカーなら、1年で訓練所に戻さなければならないので、その心配がいりません。このヴィーア(パピー犬の名)はパピーウォーカーとして受け入れた5頭目の犬です。

ー1日を簡単に教えてください。

挨子さん:朝7時に起きて、ご飯、トイレを済ませ、8時過ぎにこの子を連れて、歩いて5分ぐらいにある事務所(ヘルパーステーション経営)に出かけます。カギを開け、近所をぐるっと1周散歩するのが朝の日課。仕事は9時から夜の9時ぐらいまでありますが、お昼休みも含め、空いている時間があるので、1日に、3~4回は家に帰り散歩に連れ出しています。

ーどんな点に注意して飼っていますか?

挨子さん:パピーウォーカーは、目の不自由な方が使用している状況を想定して、使用時に

困ることをしないようにしつけなければなりません。例えば、トイレは、家で済ませてから外出する。人間の食事を与えない。飛びつかせたり、吠えたりさせない。車のシートにのせないなどいろいろあります。

ー大変そうですね

挨子さん:最初は、喜んで飛びついてくるのを無視するのが難しかったですね。しだいに慣れてきます。それに犬からのアプローチに相手をしてはいけませんが、こちらから愛情を向けるのはOKです。うまくできたらグッドとほめたり、抱きしめてあげたり、それだけで十分愛情は伝わります。

ーパピーの行動に驚いたことは?

繁殖犬になった2頭目のユノを先日、一時預かりしました。ヴィーアと一緒に兵庫県の赤穂へ旅行した時は、ユノが喜んでいきなり千種川へ飛び込みました。一瞬の出来事でどうなることかと思いましたが、ちゃんと自分であがってきました。

ー旅行もできるんですね。

挨子さん:パピーにとってとてもいい経験です。ただ、いろんな場所を歩くことを勉強させたいと思っても、まだ、「盲導犬ではない犬」なので入ってはいけないところがたくさんあり残念です。

ーご主人はパピーとはどんなお付き合いを?

寛さん:もっばら、かわいがっています。そのせいか、妻より位が下だと思われているようです(笑)。夫婦2人だけの暮らしも、犬がいることで共通の話題ができ、家の中が明るくなりました。犬は素直ですからね。

ーパピーウォーカーをやってよかったことは?

挨子さん:パピーウォーカーをしないとつきあえない人たちと出会えたこと。ライトハウスでは、3か月に1回、訓練士の方による講習会があります。そのとき、20~30人のパピーウォーカーがそれぞれ犬を連れて交流します。

ー1年で訓練所に返すのは寂しくないですか?

挨子さん:1頭ずつ犬舎スタッフの方に連れられ、帰っていく時がいちばんつらい。10カ月の間、親密に過ごした思い出を胸に、お嫁に出すようなものと割り切って送りだしています。

寛さん:悲しいですが「合格して盲導犬になって欲しい」と思います。パピーウォーカー終了1週間後の合否の連絡にはドキドキします。

ーパピーウォーカーの醍醐味は?

日頃は意識していませんが、犬たちを通して人と人の目に見えないつながりを感じられる活動だと思います。間接的でも人の役に立てるのは嬉しいですね。ペットを飼っている時とは全く別の喜びがあります。



コラム こんなにある盲導犬のボランティア

- パピーウォーカー(人間を好きになるように子犬を育てる)
- 引退犬ボランティア(引退した犬を世話する)
- 繁殖犬ボランティア(繁殖犬の出産を手伝う)
- キャリアチェンジ犬ボランティア(盲導犬になれなかった犬を世話する)
- 犬舎ボランティア(訓練所の犬舎で犬を世話する)
- 清掃ボランティア(訓練所周辺を清掃する)
- イベントボランティア(街頭募金やイベントを手伝う)
- 縫製ボランティア(チャリティグッズや犬用の服を作る)

1つの命をみとり、読経が涙声に。 仲間のおかげで前向きになりました。



れから読経をあげるときは涙声になり大変でした。その後、気持ちが落ち込むペットロスになりました。

—ペットロスの状況はどのようにして埋められたのですか?

啓知さん:ひとつは、同じ引退犬ボランティアの人たちが励ましてくれたことがあると思います。プーマのお葬式のと

らぎました。

—引退犬ボランティアの魅力は?

良子さん:たとえ短い期間でも、盲導犬として働いてきた犬は、トイレのしつけもしっかりできていて、散歩していて犬と会っても動じません。落ち着いて飼いやすいですね。それに頑張っ

て働いてきたのだから、ゆっくりさせてあげたいです。
啓知さん:ブリーダーやペットショップから犬を買い、ペットとして飼うよりも、すでにある命、がんばってきた盲導犬の命を預かるほうがいい。犬が高齢になると介護で大変かもしれません。自分の時間はなくなりますが、それを犠牲とも思わないし、自然体ですね。

—引退犬ボランティアをはじめた理由は?

良子さん:国産第1号の盲導犬を誕生させた塩屋賢一さんの本に影響を受け「つとめを終えた引退犬の世話をしたい」と思っていました。

—こちらのクワン(引退犬の名)が最初ですか?

良子さん:最初に預かったのはプーマといって、昨年10月に亡くなりました。クワンは2頭目で、てんかんが出るので引退になりました。2頭とも盲導犬としてつとめたのは1年だけです。他にゴールデンレトリバーのリョウ(11歳)とミニチュアダックスフンドのケイ(10歳)をペット犬として飼っています。

—プーマは病気で亡くなったのですか?

良子さん:プーマは血液が壊れていく病気にかかり、リョウの血を輸血しました。落ち着いたと思ったらメラノーマというがんにかかり、抗がん治療もしましたが、転移して肺がんになり、亡くなりました。

啓知さん:息が止まった瞬間、耳元で「ありがとう」と叫ぶと、返事をするようにしっぽを5-6回ふってくれた。何とも言えなかったですわ。そ

アのNPOへ立ち寄ったら、そこに来ていた10人ほどの引退犬ボランティアの人たちが最後まで見送ってくださいました。嬉しかったです。

—仲間の存在は大きいですね。

啓知さん:みな同じ立場ですから、何かあったら相談しています。シャンプーデーや研修会もあります。ライトハウスでも、盲導犬訓練所のボランティアの集まりである「ライトフレンズ」などで親睦会をやっていますね。

—ペットロスを埋めた、もう一つの要因は?

啓知さん:クワンの存在ですね。プーマが亡くなり2カ月ぐらいて、ライトハウスにいった時、「この子はてんかん持ちだけど、みてみますか?」と言われて。最初は「なんと不細工な」と笑っていたのですが、年末に一人ぼっちはかわいそうやなと思い、連れて帰りました。ところがうちにくると全然違う、性格美人なのですよ(笑)。おかげで、プーマが死んだ悲しみがやわ



コラム 「身体障害者補助犬法」をご存知ですか?

平成14年に「身体障害者補助犬法」が施行され、盲導犬をはじめとする補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)は、ペットとは異なる社会的な存在となりました。これまで「盲導犬」には、道路交通法による規定しかなく、宿泊施設や飲食店で同伴を断られることがありました。また、「介助犬」や「聴導犬」については、法的な位置づけがなく、公共の

施設や交通機関等への同伴が円滑に受け入れられない状況がありました。しかし、この法律によって、身体障害者補助犬の訓練事業者及び使用者の義務が定められ、身体障害者が施設を利用する場合に補助犬を同伴することができるようになりました。

